

心臓カテーテル検査説明書

1. 病名、病状

狭心症、心筋梗塞症、冠動脈硬化症、心臓弁膜症、不整脈、心筋症、閉塞性動脈硬化症
先天性心疾患、その他（ ）、疑い

2. 検査法（検査予定日 平成 年 月 日）

心臓カテーテル検査（①冠動脈造影検査、②血管造影検査、③電気生理学的検査、④右心カテーテル検査）

上肢もしくは下肢の血管からカテーテルという細い管を挿入し、心臓内の圧力測定や心筋組織の採取をしたり、カテーテルを介して造影剤を注入することによって心臓血管系の異常を調べます。電気生理学的検査では、伝導系の異常を電極カテーテルを用いて調べます。

3. 検査の目的

①あなたの冠動脈（心臓を養う血管）は、動脈硬化のために細くなっている（狭窄している）可能性があります。どの血管にどのぐらいの狭窄があるかを調べる検査です。冠攣縮性狭心症が疑われる場合には、誘発試験を行います。

②あなたの心臓や血管に異常がある可能性があります。どのような異常かを調べる検査です。

③あなたの心臓の拍動に異常があります（不整脈）。不整脈に対する治療法を決定するための検査です。

4. 検査の危険性

検査中に、血圧低下や、不整脈が出現する場合がありますが、検査中は常時血圧や心電図を監視していますので、多くの場合直ちに処置が可能で、一過性です。

5. 合併症

稀ですが、心不全、不整脈、血栓症（脳血栓症、下肢血栓症等）、心タンポナーデ、出血、感染症、末梢神経障害、ショック、アレルギー症状、腎不全（人工透析導入の可能性もある）、放射線皮膚障害（潰瘍など）、血管破裂・穿孔、カテーテル抜去困難、コレステロール塞栓症（重篤な場合下肢切断を要する）、ヘパリン誘発性血小板減少症をおこす場合があります。重篤な合併症が出現した場合は、迅速な処置が必要ですので、現場での判断で電氣的除細動、人工呼吸、心臓マッサージ、循環補助装置の装着、緊急外科的処置、輸血を必要に応じて行います。開胸手術を要する場合があります。致命的な合併症の発生は0.1%以下です。

6. その他

穿刺部（カテーテル挿入部位）の小出血斑、および血腫、指先のしびれ感はよく認められますが一ヶ月程度で治ります。検査成績は個人情報をご非公開にして、学会や論文発表に使用する場合があります。医療機器の適正使用のため医療機器関係の業者が検査に立ち合う場合があります。妊娠の可能性のある方は申しでてください。